

医師の『意見書』が必要な感染症

感染症名	主な症状	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹 (はしか)	発熱・咳・鼻水・結膜炎・コプリック斑一旦解熱後に淡紅色～褐色の発疹出現	発症 1 日前から発疹出現後の 4 日後まで	解熱後 3 日を経過してから
インフルエンザ	高熱・咽頭痛・関節痛・筋肉痛・悪寒・倦怠感	症状が有る期間(発症前 24 時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い)	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまで(乳幼児にあっては、3 日を経過するまで)
風疹	軽熱・淡紅色の発疹・頸部リンパ節腫脹	発疹出現の前 7 日から後 7 日間	発疹が消失してから
水痘 (水ぼうそう)	小紅丘疹→水疱→2～3 日でかさぶたが混在・発熱不定	発疹出現 1～2 日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	片側あるいは両側の耳下腺の腫脹・圧痛・発熱合併症・髄膜炎・難聴。	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
結核	食欲不振、微熱・咳・体重増加不良・やせ		医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱 (プール熱)	高熱・咽頭痛・結膜炎・結膜充血・倦怠感	発熱、充血など症状が出現した数日間	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜炎	眼球・眼瞼結膜の充血・眼脂・流涙	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	発作性咳の長期反復、持続(特に夜間や早朝)	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111 等)	激しい腹痛・水様下痢または大量の新鮮血・嘔吐・発熱・脱水症		症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48 時間をあけて連続 2 回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血が特徴	ウイルスは呼吸器から 1～2 週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎			医師により感染の恐れがないと認めるまで